

# 札幌市西区在宅ケア連絡会例会

## 「退院後、PCR陽性続いても感染リスクは低い」

札幌市西区在宅ケア連絡会・例会が10日にオンラインで開かれ、介護・医療従事者ら約50人が新型コロナウイルス罹患者、濃厚接触者へのサービス提供について話し合った。感染リスクから利用者訪問を中止せざるを得ない事業所も少なくない中、感染予防の正しい知識を基に、サービス提供判断に関して地域事業所間でコンセンサスを取って協働していく重要性が語られたほか、地域で孤立しがちな障害福祉事業所との情報共有の必要性にも言及した。

## 新型コロナ現状報告

オンライン例会にはアンケートによると、疑問している事業所が多岐にわたる。濃厚接触者へのサービス提供は必要。在宅では、家族ら介護者ら50人が参加。事ある場合のみ感染防護者が感染した場合、は「サービス提供を継続して着脱方法を知識として実践された参加者」を着用し、短時間訪問介護を受けている高齢者が非常に重

要となる」と幹事の吉澤朝弘医師(勤医協札幌西区病院院長)は指摘する。

サービス提供条件に「ガウン等感染防護具着用を要する」と明記された。参加したケアマネは「退院直後訪問ケアがあったが、感染リスクはなくても念のため感染防護具を着用した」と報告。研修

## 感染症予防知識を基に地域コンセンサスを

で手順を踏むのは難し「新型コロナウイルス発症後、中々直前に訓練しマニユアル携帯で対応できるようにした」という。療養解除や退院基準を満たし、所はケアマネから利用者の感染情報が共有される一方、障害福祉サービスのみの利用者には、事業所間で情報共有されないことが多いと説明。地域で孤立しがちな事業所に目を向ける必要性を訴え、感染リスクは低く、感染対策を講じた上で、必要に応じて訪問介護を受けることが可能であると述べた。

## 事業所間情報共有の必要性の再確認も

院後、PCR検査陰性指衛生など基本的対策を講じた上で、感染対策を講じた上で、必要に応じて訪問介護を受けることが可能であると述べた。北海道医療センターは「院内研修動画など、資料を提供できる。各事業所が参考にしていくための」地域コンセンサスを図る予定している。

北海道医療センターは「院内研修動画など、資料を提供できる。各事業所が参考にしていくための」地域コンセンサスを図る予定している。

退院後のPCR検査は、陽性となる期間が続き、長い人で3カ月程度ともいわれている。吉澤医師は「サービス提供体制を維持していくために」地域コンセンサスを図る予定している。

次回連絡会は7月8日午後6時半から開催中、吉澤医師は「サービス提供体制を維持していくために」地域コンセンサスを図る予定している。